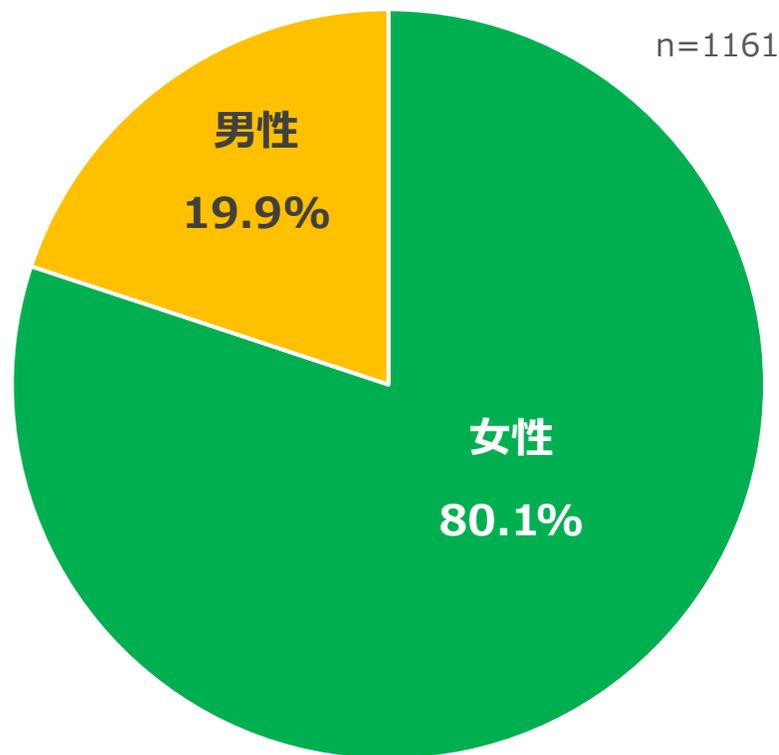




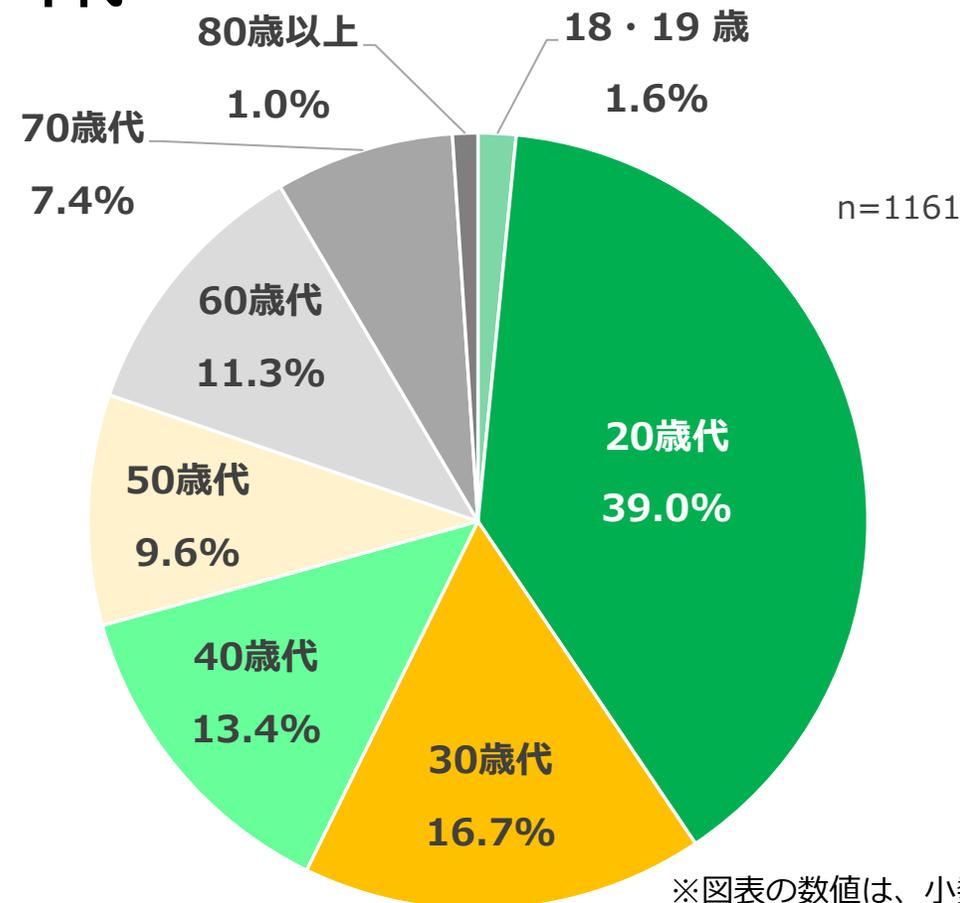
**日本財団ウクライナ避難民支援  
アンケート結果  
(第6回)**

## 男女比

※アンケート回答者の男女比。日本財団の支援対象者の男女比は男性：25%、女性75%



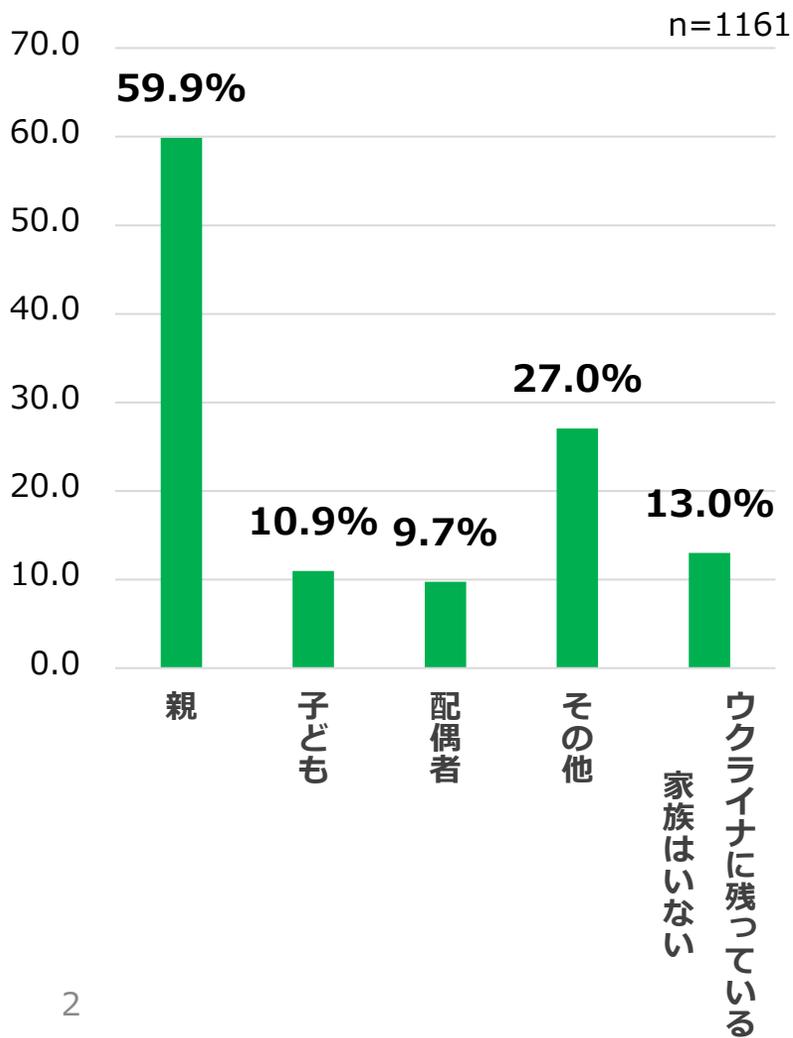
## 年代



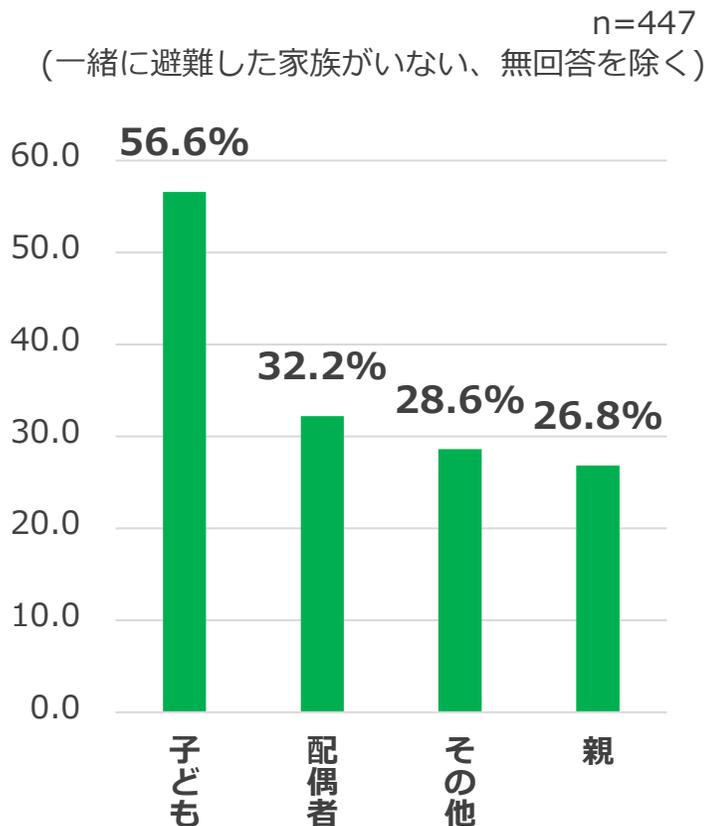
※図表の数値は、小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計しても必ずしも100%とはならない。

アンケート対象：日本財団の支援を受けている18歳以上のウクライナ避難民  
アンケート収集数：1,161人 実施期間：2024年3月11日～4月20日

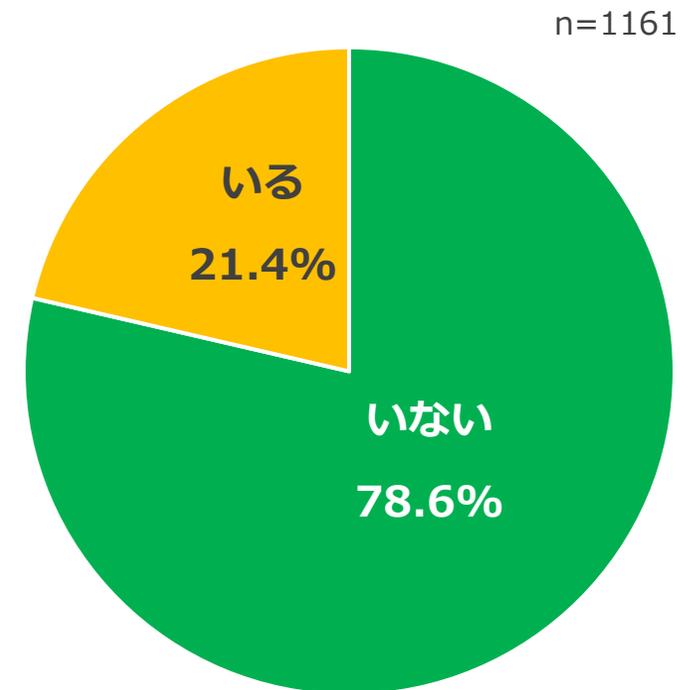
## ウクライナに残っている家族



## 一緒に避難した家族

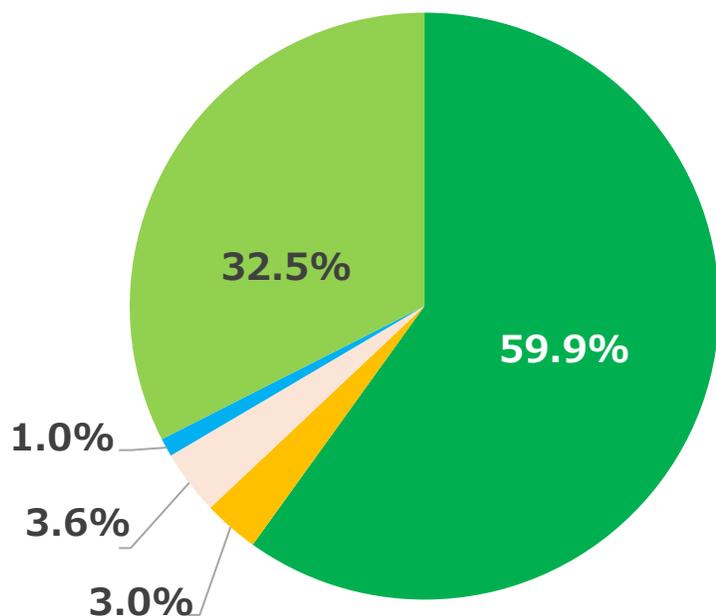


## 17歳以下の子どもと一緒に避難しているか



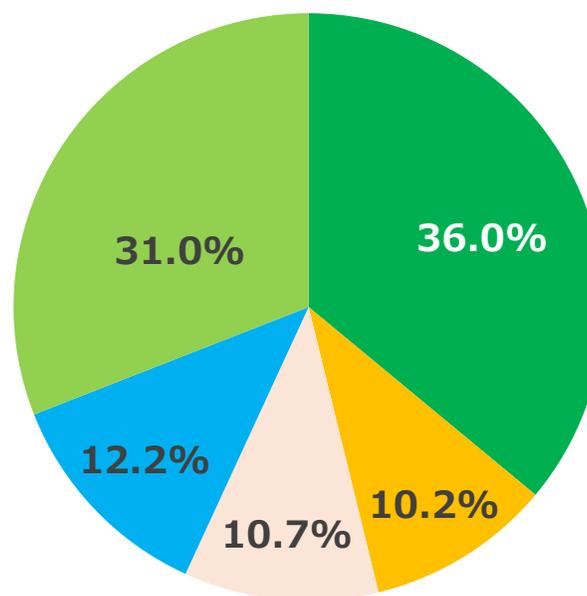
## 日本の学校

n=197



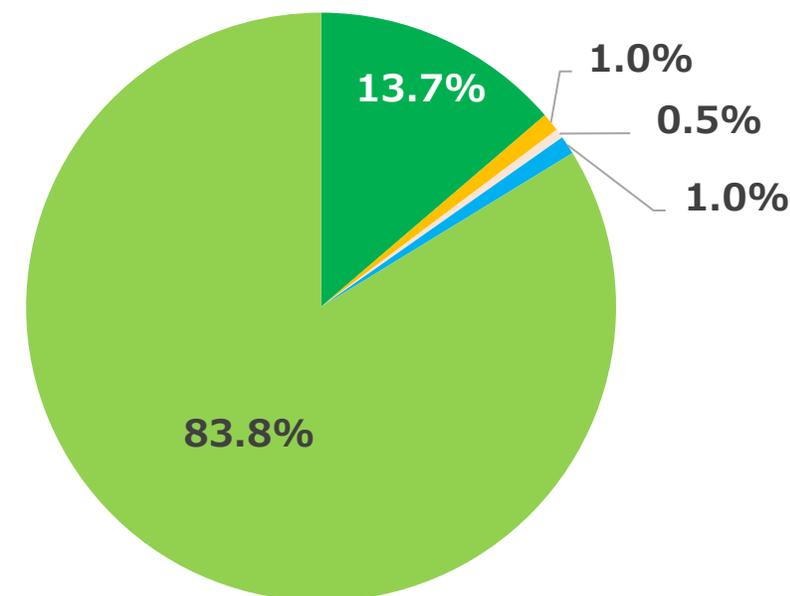
## ウクライナの学校 (オンライン)

n=197



## 日本の外国人学校 (インターナショナルスクール等)

n=197

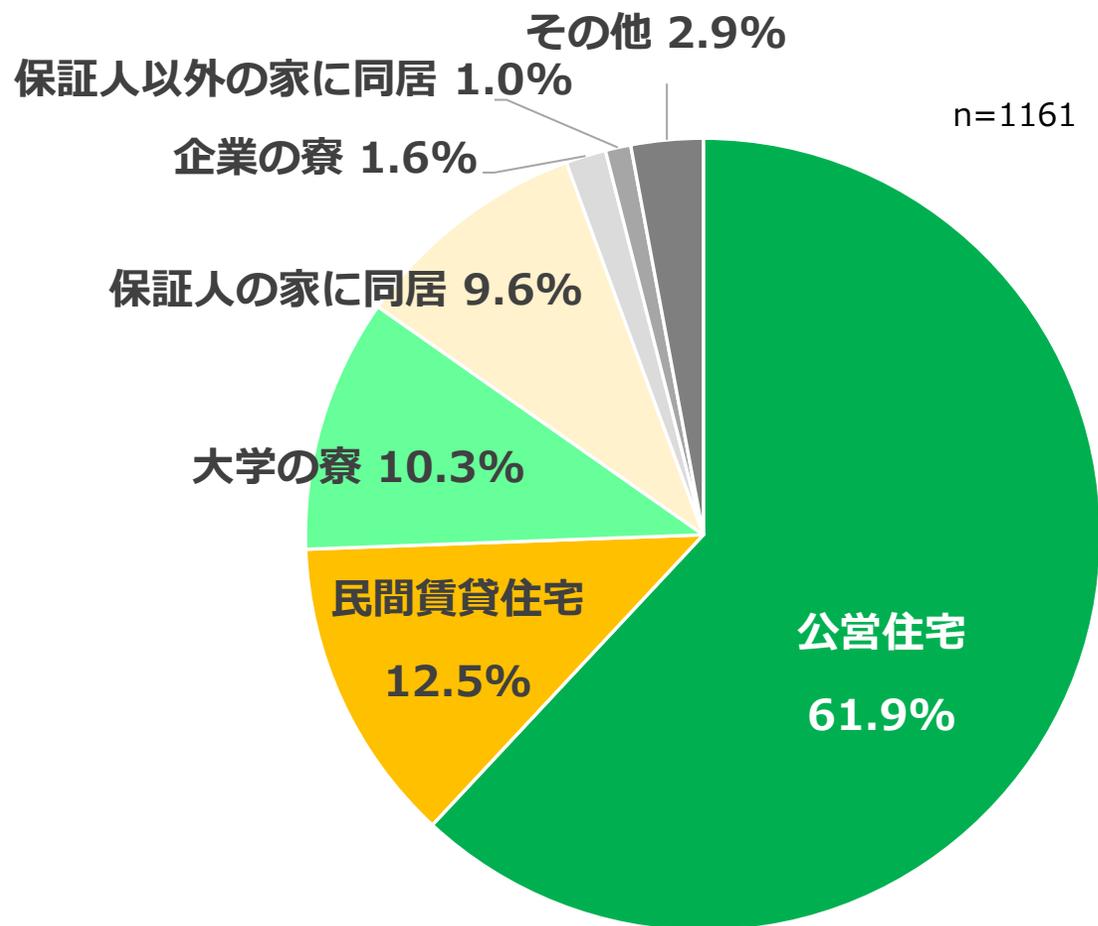


■ 毎日 ■ しばしば (週3~4回) ■ たまに (週1~2回) ■ 特定の教科だけ ■ 教育を受けていない

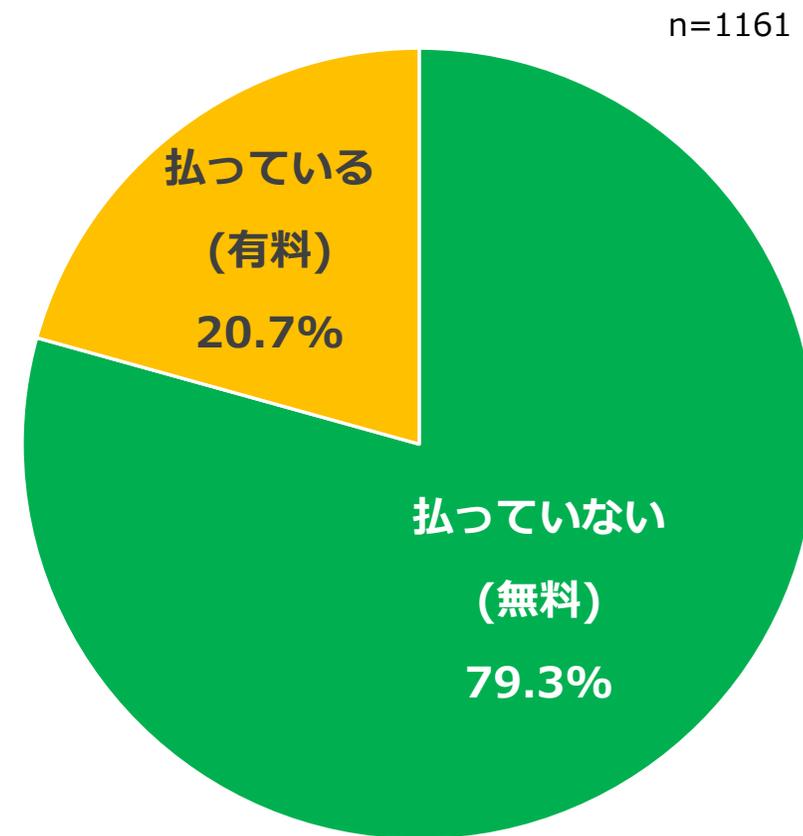
※図表の数値は、小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計しても必ずしも100%とはならない。

アンケート対象：日本財団の支援を受けている18歳以上のウクライナ避難民  
 アンケート収集数：1,161人 実施期間：2024年3月11日~4月20日  
 ※上記対象者のうち、子どもが就学年齢（6歳から17歳）の方197人が回答

### どのような家に住んでいるか



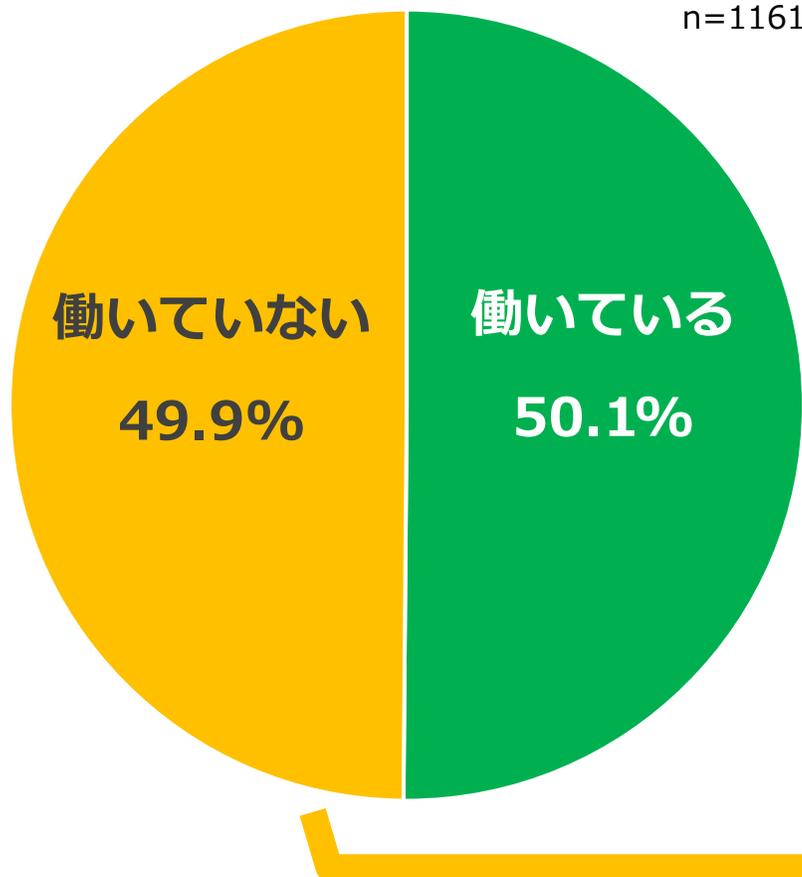
### 家賃を払っているか



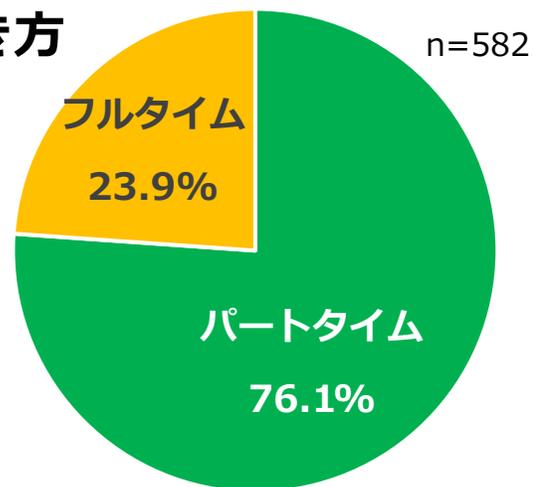
※図表の数値は、小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計しても必ずしも100%とはならない。

アンケート対象：日本財団の支援を受けている18歳以上のウクライナ避難民  
アンケート収集数：1,161人 実施期間：2024年3月11日～4月20日

働いているか



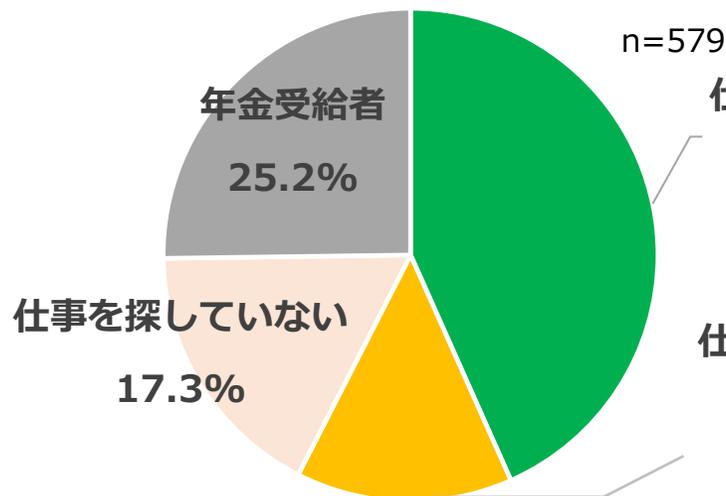
働き方



職種

職種	割合
販売・フード・アミューズメント	27.8%
事務・アシスタント	11.7%
保育・教育・通訳	10.7%
営業	8.2%
美容・ブライダル・ホテル・交通	5.5%
クリエイター・クリエイティブ職	3.4%
技能工・設備・配送・農林水産	3.1%
ITエンジニア	2.6%
医療・福祉	2.2%
建築・土木	1.0%
その他	23.7%

働いていない場合の状況

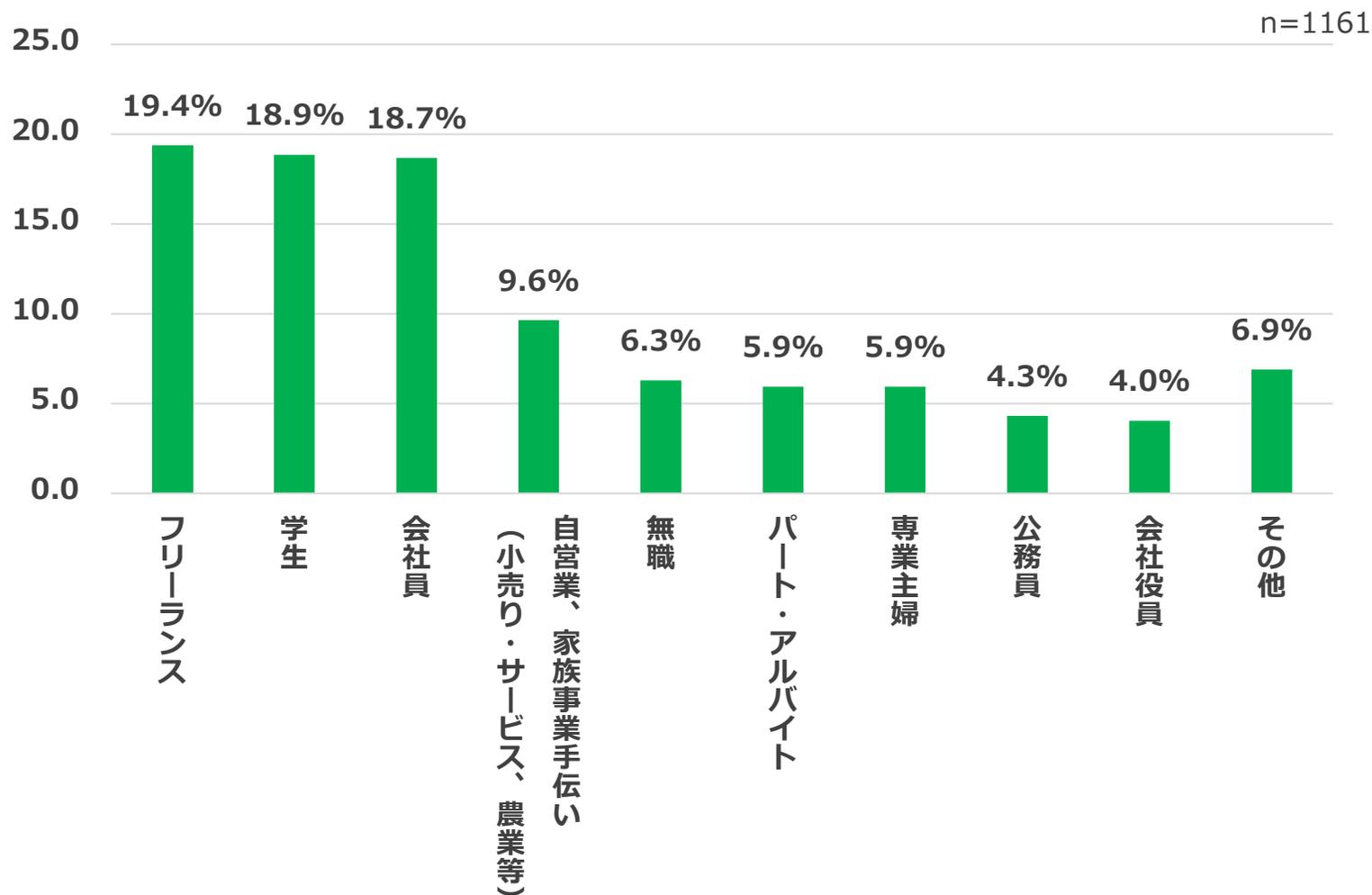


仕事を探しており、日本語教育、  
職業訓練を受けている  
43.4%

仕事を探しているが、日本語教育、  
職業訓練を受けていない  
14.2%

※図表の数値は、小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計しても必ずしも100%とはならない。

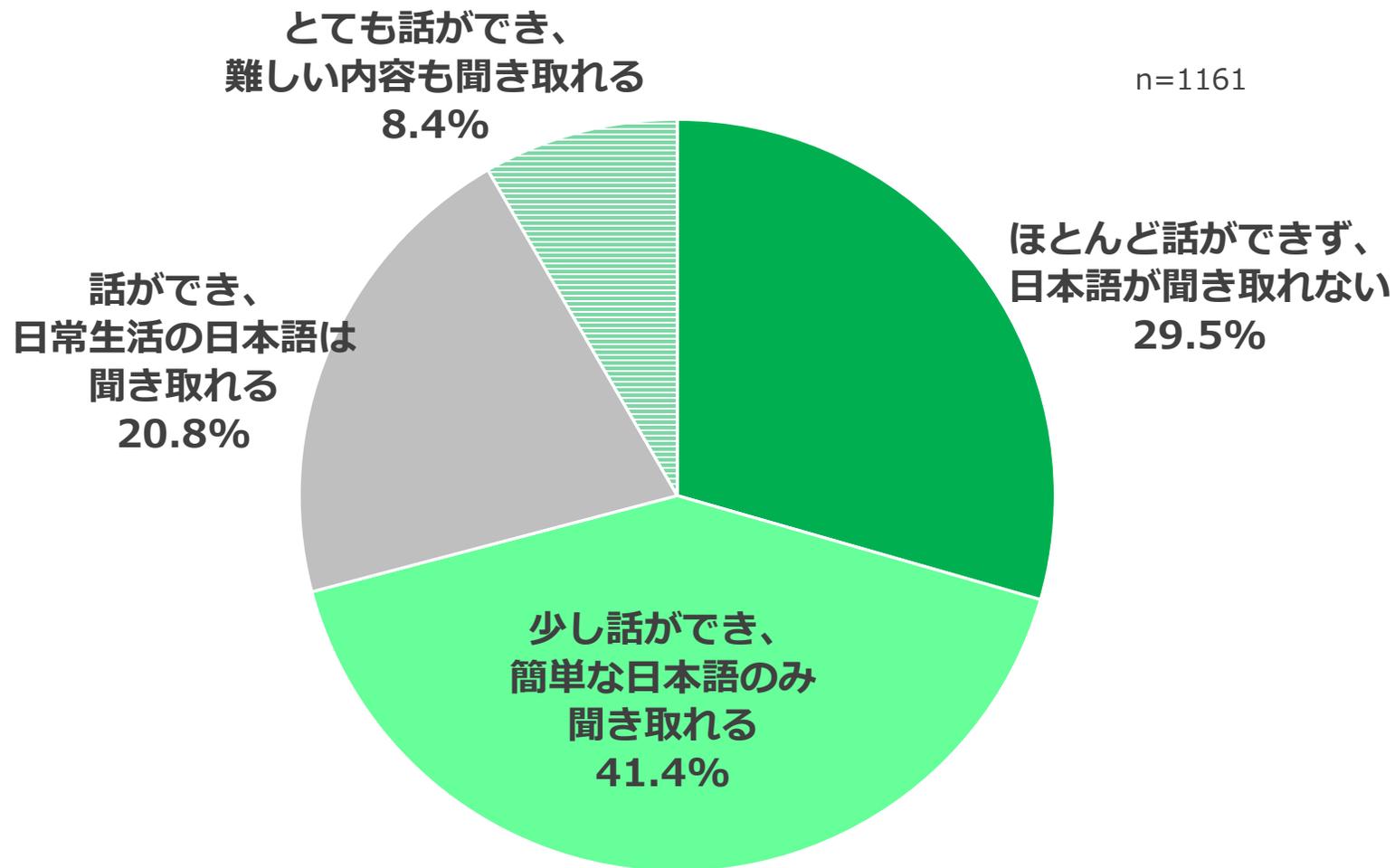
## ウクライナでの職業



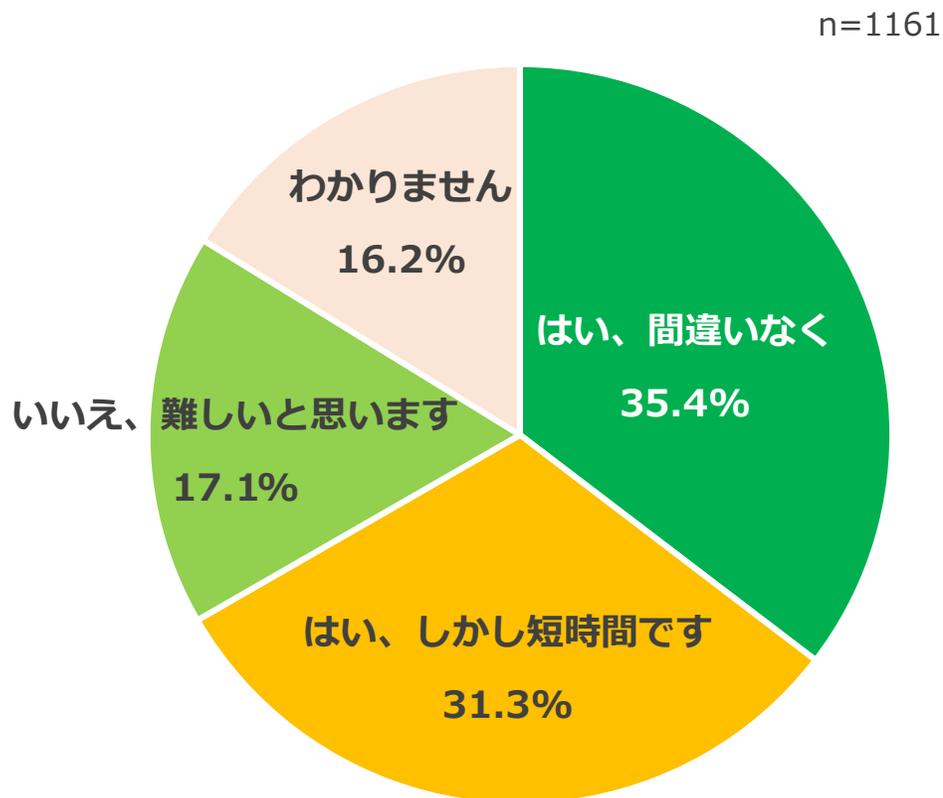
※図表の数値は、小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計しても必ずしも100%とはならない。

アンケート対象：日本財団の支援を受けている18歳以上のウクライナ避難民  
アンケート収集数：1,161人 実施期間：2024年3月11日～4月20日

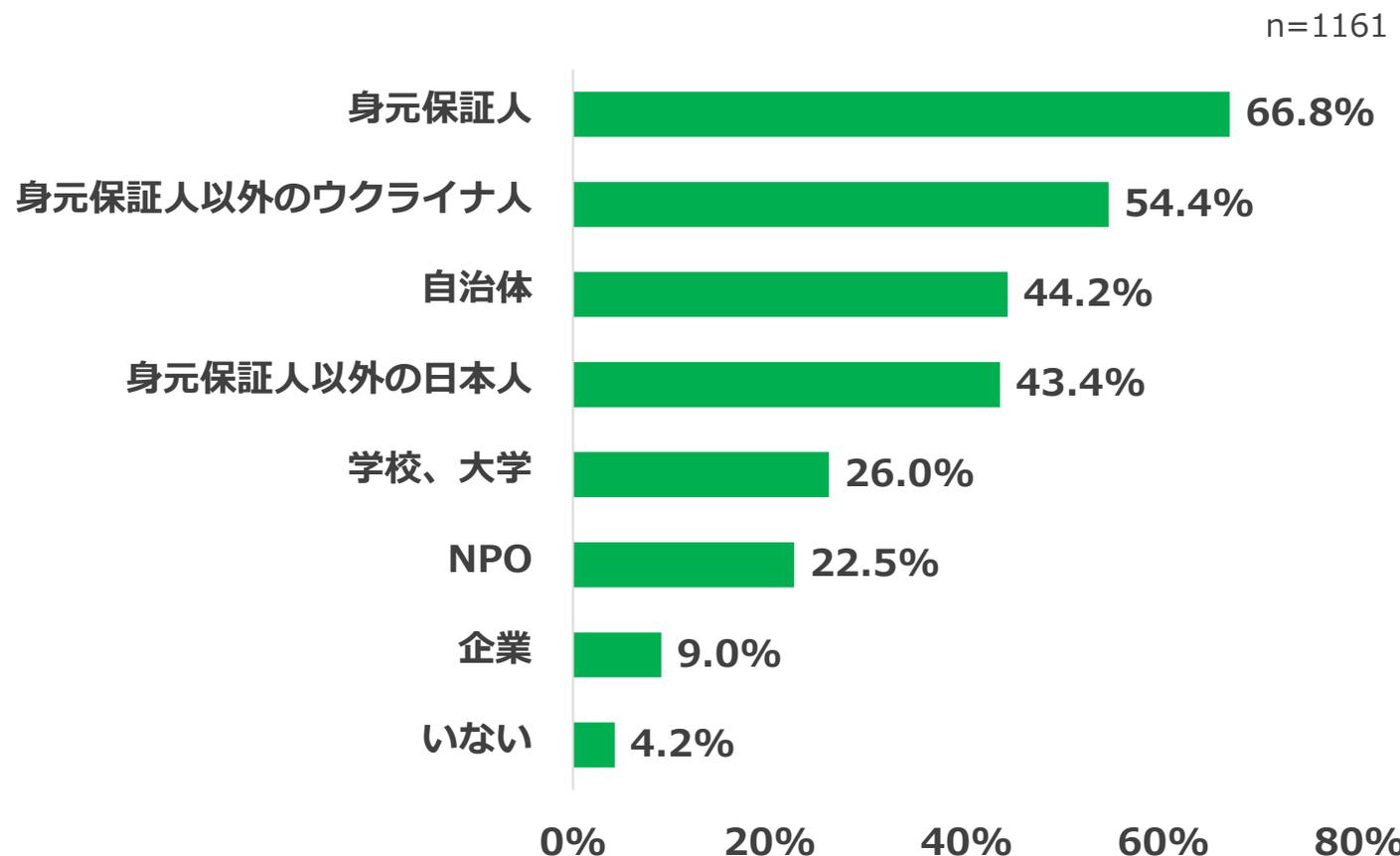
## 日本語が話せるか



## 身元保証人にサポートする余裕があるか



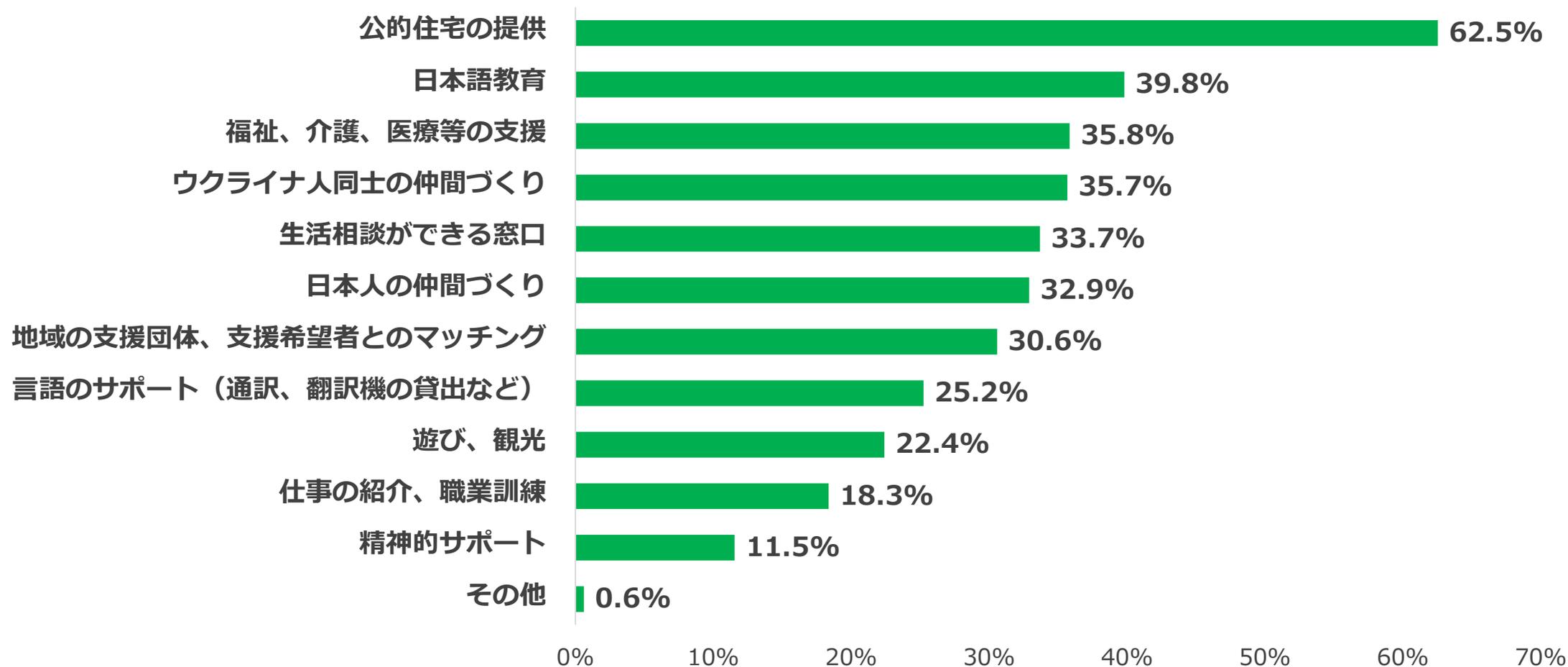
## 困ったときに相談できる存在（複数回答）



アンケート対象：日本財団の支援を受けている18歳以上のウクライナ避難民  
アンケート収集数：1,161人 実施期間：2024年3月11日～4月20日

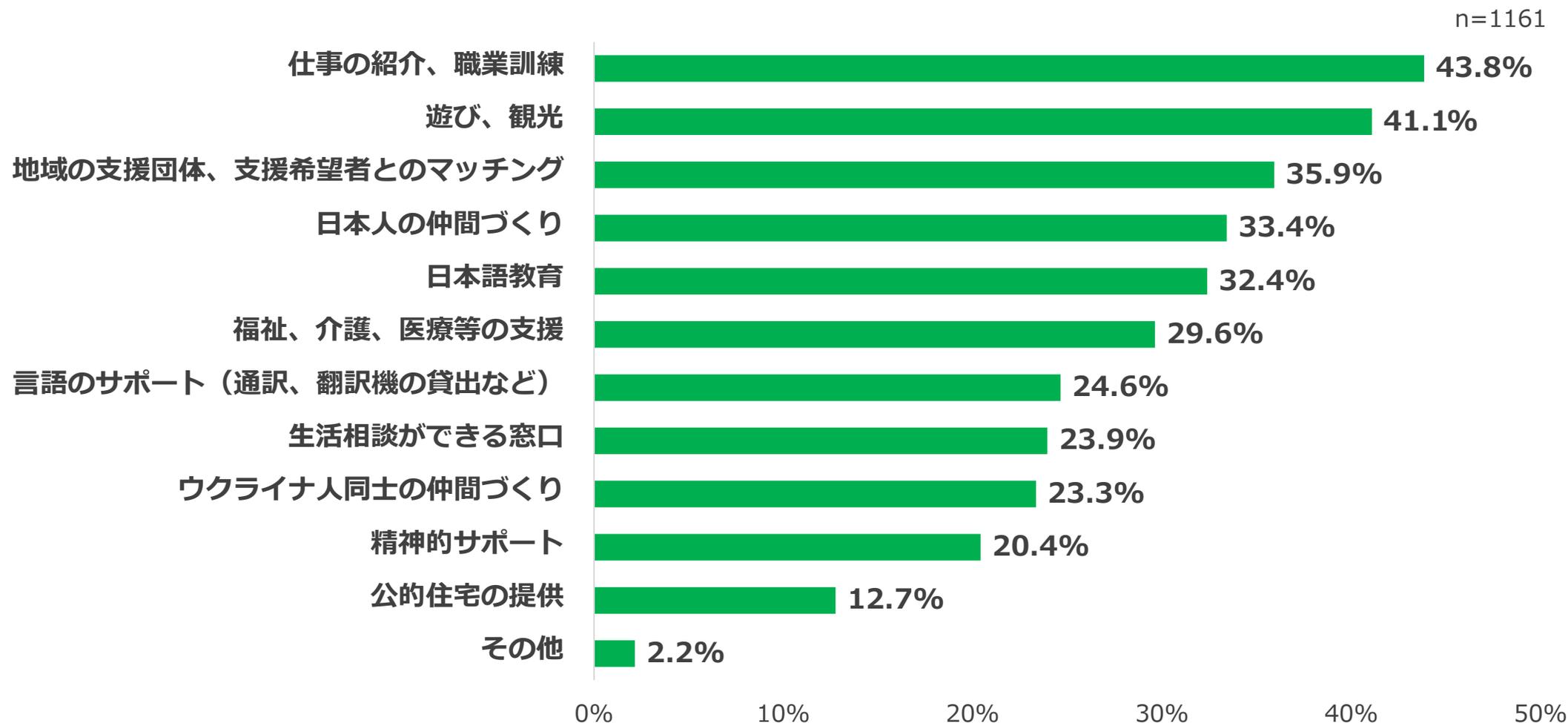
## 給付金、生活物資の提供以外で、受けている支援は何ですか。

n=1161



アンケート対象：日本財団の支援を受けている18歳以上のウクライナ避難民  
アンケート収集数：1,161人 実施期間：2024年3月11日～4月20日

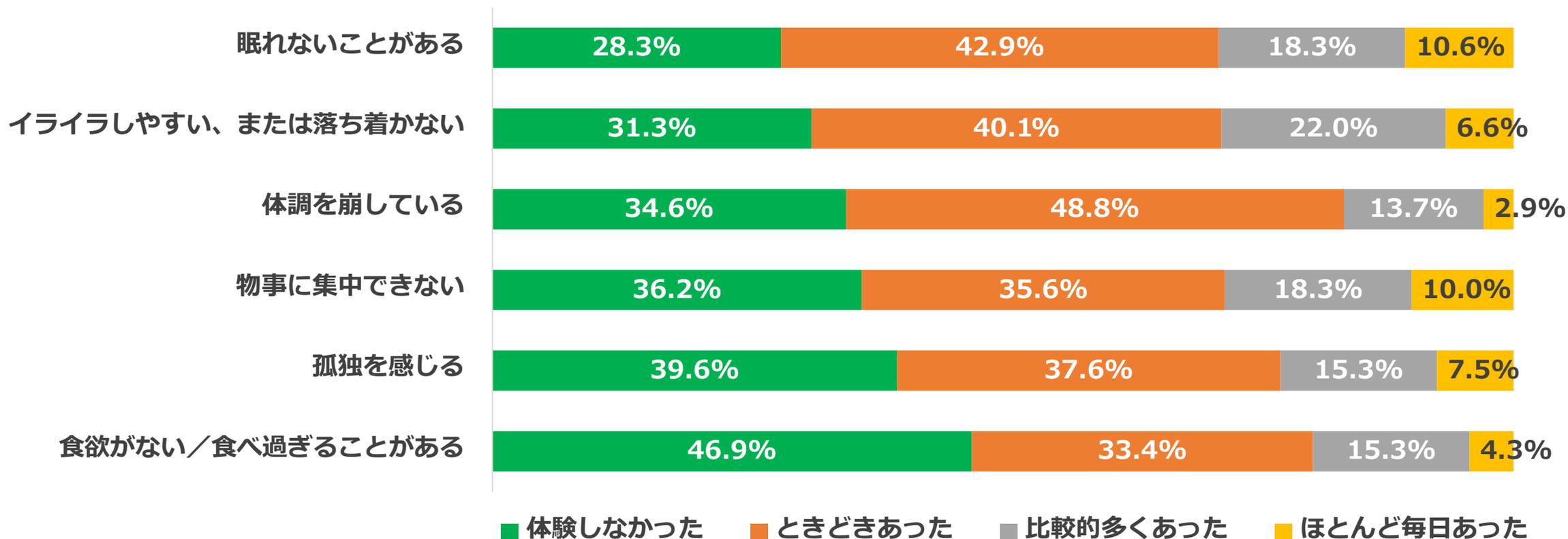
## 給付金、生活物資の提供以外で、必要な支援は何ですか。



アンケート対象：日本財団の支援を受けている18歳以上のウクライナ避難民  
アンケート収集数：1,161人 実施期間：2024年3月11日～4月20日

## ここ2週間の状況であてはまるもの

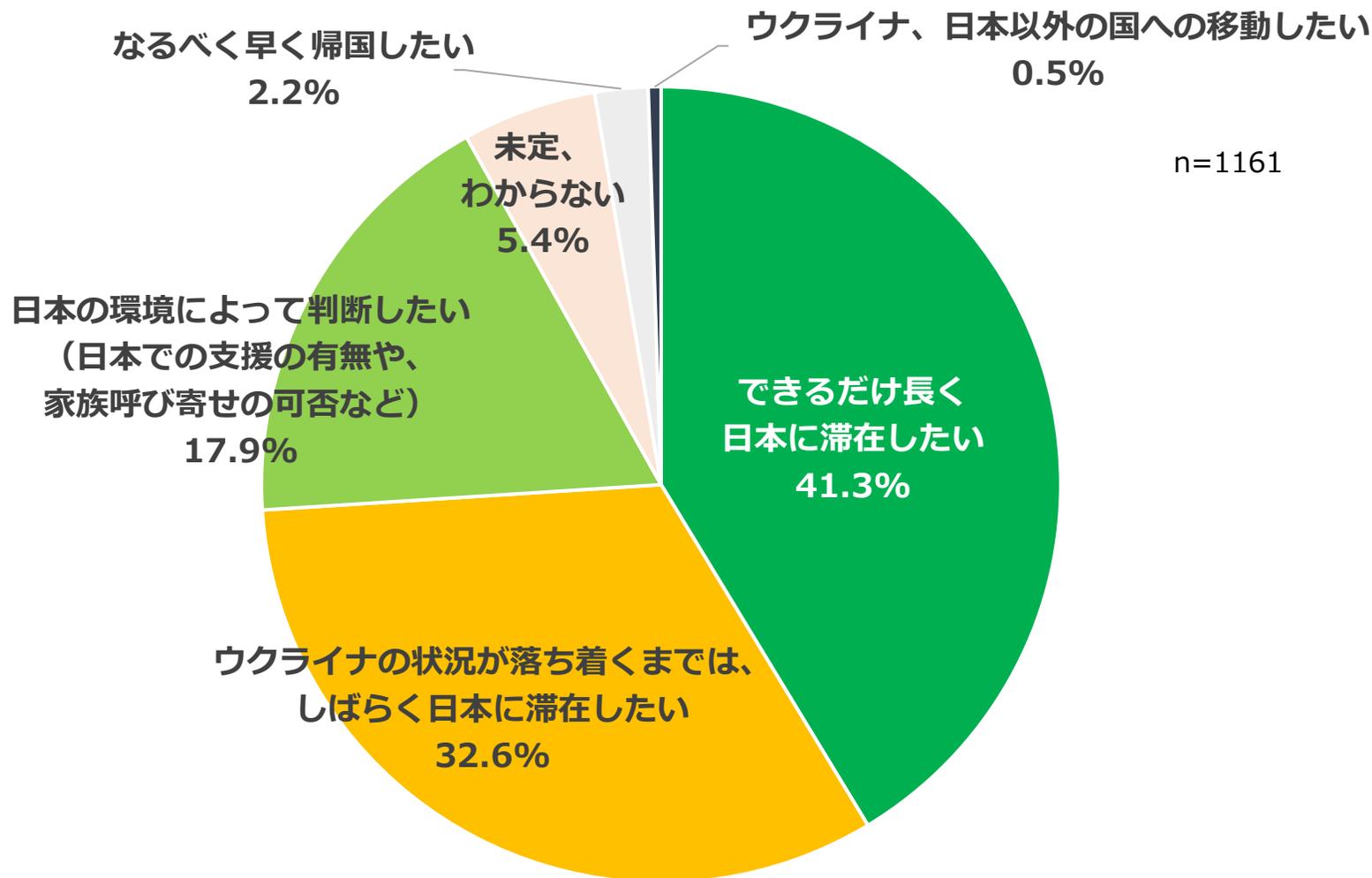
n=1161



※図表の数値は、小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計しても必ずしも100%とはならない。

アンケート対象：日本財団の支援を受けている18歳以上のウクライナ避難民  
アンケート収集数：1,161人 実施期間：2024年3月11日～4月20日

## 帰国の意思、希望を教えてください。



※図表の数値は、小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計しても必ずしも100%とはならない。

アンケート対象：日本財団の支援を受けている18歳以上のウクライナ避難民  
アンケート収集数：1,161人 実施期間：2024年3月11日～4月20日

## アンケート結果：コメント抜粋

日本語を勉強し始めてから、私の暮らしは変わりました。日常生活に自信が持てるようになりました。（女性／40代／佐賀県）

日本語を勉強することでの社会の一員になる機会と支援にとても感謝しており、私も将来社会に良いものをもたらしたいと思っています。（女性／30代／神奈川県）

すでに日本の生活に慣れていきます。語学学習のおかげで、はるかに早く簡単に実現できました。仕事を探し始めるときにより良い選択肢を得るために、より高いレベルで言語を学びたいと思っています。（女性／30代／千葉県）

言語学習の進歩とともに、暮らしに関する全ての疑問が簡単に解決できるようになりました。来月からフルタイムで働きます。あなたが私に与えてくれた日本語を勉強する機会に感謝します。（男性／20代／東京都）

日本に長く住めば住むほど、日本が好きになります。私は日本語を勉強しています。簡単ではありませんが、日本語でコミュニケーションをとることにとても興味があります。私の上の子は幼稚園に適應しており、幼稚園が気に入っており、友達もできて、すでに日本語を話し始めています。（女性／30代／鹿児島県）

ウクライナ人や日本人とコミュニケーションを図ったり、興味深い文化イベントに参加したり、日本文化を学ぶ興味深い経験をする機会があります。日本財団からの支援と、大学や一般の人々からの精神的な支援の両方を感じてうれしく思います。安心感があります。（女性／20代／東京都）

このような高齢になって戦争のために保護と避難場所を求めなければならないのはとても悲しいです。私はここでの生活に満足していません。私には日本人の友達がいますし、近所の人とも友達になります。（女性／80代／滋賀県）

## アンケート結果：コメント抜粋（課題）

私は日本の生活に満足しています。私は語学学校で勉強しています。仕事を探し始めたが、日本語が下手だという理由で、ひとまず断られました。それは残念です。（女性／50代／東京都）

日本語の知識がなければ、特にバレエダンサーとしての私の職業では、フルタイムの仕事がないことが課題です。孤独感や多少の憂鬱感、劣等感があります。私はバレエ劇場で良い職業に就いていました。日本では何らかの形で生活を調整することが非常に難しいです。（男性／30代／東京都）

十分なレベルの言語と専門知識が不足しているため、今までのスキルを仕事に活かすことができません。ウクライナと日本の異なる医療システムに関連した、医療に関する問題もいくつかある。。日常生活の分野で十分な知識がありません。（女性／60代／東京都）

日本での生活には多くの利点がありますが、最大の欠点は常に孤独感を感じることです。（女性／30代／熊本県）

言語や文化の知識が不足しているためストレスが多く、ここに滞在して勉強し、仕事を見つけることができるかどうかという経済状況への不安もあります。（女性／20代／福岡県）

ウクライナ人を支援するNPO団体について、知りたいのですが、残念ながらそのような情報がなく、入手することができません。（女性／60代／佐賀県）